

令和4（2022）年度 事業報告書

特定非営利活動法人 海のくに・日本

1 事業報告

令和4（2022）年度は、前々年からつづく新型コロナウイルス感染拡大の影響をうけざるを得なかった。

そのなかで、できることから始めようと考え、国内活動においては感染者が減ってきたタイミングで6月にウーマンズフォーラム魚に協力する形で「浜のかあさんと語ろう会」をリアルな形で実施した。また海外活動としては8月にコートジボワールのアビジャンで水産資源の持続的な利用をテーマにシンポジウムを開催した。

2016年度から巣鴨地藏通り商店街とともに行ってきた「巣鴨くじら祭り」は12月にコロナ対策を講じながら3年ぶりにリアルな形で実施した。こどもたちの離島学習はコロナ対策として船を使わずに行ける島として城ヶ島をテーマに開催し、多くのこどもたちが参加した。

2. 「日本の伝統的な水産加工技術(すり身加工)を通して、アフリカの漁業コミュニティの生計をよりよくするプロジェクト＝(略称)すり身ワークショップ」

NPO海のくに・日本は2020年度より2021年度にかけて西アフリカで女性漁業者を支援する「すり身ワークショップ活動」を実施し、約250人の修了者を輩出するという大きな成果をあげることができた。修了生たちは自らすり身を作り、加工し、販売する力をつけることができるようになった。拠点となる「すり身研修センター」は2022年3月に完成し、■■■■ 日本■■■■ のご臨席の下で開所した。

2022年度は、研修生それぞれが屋台や店舗で販売活動を実施し、学校や病院にすり身がメニューに加わるよう働きかけることをテーマに掲げ、コートジボワール動物・水産資源省(MIRAH)に協力を求めつつ協議を重ねた。MIRAHとの協議は、メールでのやりとりを主であったが、2022年8月に下記の「水産資源の持続的利用の広報活動」のため■■■■以下2名がアビジャンへ出かけた際にはMIRAHで■■■■と対面で話し合い、協力体制づくりを確認した。12月には■■■■が来日したことから、日本においても協議をつづけ、NPO海のくに・日本が主導してきた「すり身プロジェクト」とプロジェクトを受講した「すり身研修生」を継続的に支援することが約束された。

3. 「水産資源の持続的利用の広報活動」

大日本水産会事業として、アフリカで現地の漁業関係者とともに「水産資源の持続的利用の広報活動」をテーマとしたシンポジウムをワークショップ形式で開催した。NPO海のくに・日本からは■■■■

が大日本水産会との共催者として出向いた。スピーカーとして 理事、進行役として が出席した。駐コートジボワール日本大使館からも多数の出席があった。コートジボワール側は、MIRAH幹部をはじめ、各水産部局の代表者、大学教授、水産加工会社社長、現場の漁師や複数の国際機関から担当者が出席した。すり身研修生も多数参加し、総勢100名近くで開催した。そして、魚を獲る側、買う側、取り締まる側、調査・研究する側がそれぞれの立場から意見を述べあい、コートジボワール漁業のどこに課題があり、どのようにしたら水産資源の持続的な利用となるかについて議論した。

昼食には「すり身弁当」が供された。これはNPO海のくに・日本のアイデアによるもので、集まった人々に「すり身加工は、水産資源の持続的利用の良き例となる、すり身はまた栄養価の高い食品である」ことをPRするよう努めたものである。

4. 「コートジボワール水産物輸出入調査」

すり身プロジェクトにかねて関心を持ち応援団であるロビン株式会社より、コートジボワールの農産物・水産物の輸出入調査を依頼された。コートジボワールにて調査活動を行うとともに、日本国内で駐日大使館や関係者に聞き取り調査を行い報告した。またコートジボワール動物・水産資源省(MIRAH)の が2022年12月に来日したことから、ロビン株式会社とMIRAHとの意見交換の機会をつくり、コートジボワールと日本との水産物交流による相互発展を模索した。

5. 「クジラ食文化啓蒙普及＝巢鴨くじら祭り2022・くじら川柳大会、クジラの授業」

2019年、日本政府は国際捕鯨委員会(IWC)を脱退し、日本の捕鯨とクジラ食文化は新しい局面を迎えた。調査捕鯨から商業捕鯨にかわり、クジラについてのニュースが減少するなかにおいて、当会は従来より行ってきた日本人とクジラとの深い関わりや鯨肉の栄養的価値を伝える活動をこれまで以上に行う必要があると考え、一般消費者や子どもたちがクジラ食やクジラの文化にふれる機会を工夫しつつ実施した。

具体的には、2000年より行っている「クジラの授業」を子ども、栄養士、一般消費者、栄養大学の学生、調理師学校の学生を対象に開催した。クジラの授業は、どこの会場においても「日本人とくじらの深い関わりがわかった」「鯨肉は美味しい、栄養価も高いことがわかった」「もっと知りたい、もっと広く知らせたいと思った」という声があがり、熱い感想が届いた。

もうひとつの取り組みとして、2016年より開催している「巢鴨くじら祭り」を、リアルな形で開催することとし、【くじら川柳】の募集とともに企画し実施した。

巢鴨くじら祭りは3年ぶりのリアル開催だったが、巢鴨地蔵通り商店街関係者から「待ってました」「楽しみです」という声が開催前からあがり、地域に呼びかけて実施する【くじら川柳】についても、当日提供した【くじら弁当のふるまい】に対しても、多数の参加を得ることができた。 に考案してもらった【巢鴨くじら踊り】には、多くの来場者が見物だけではなく一緒に参加した。会場にお借

りした眞性寺境内のあちこちで、クジラの種類と料理名を読み込んだ歌詞を歌いながら、楽しく踊る輪ができた。

また日本鯨類研究所と共同で行った【クジラ・ワークショップ】には、くじら川柳に参加した多数の児童が保護者とともに参加した。「クジラのことをとてもよくわかった」「楽しかった」という感想が多数寄せられた。

全国5カ所のクジラの町に呼び掛けて実施した「クジラの町の紹介コーナー」にも多数の参加があった。北海道釧路市、宮城県石巻市、和歌山県太地町、山口県下関市、長崎県新上五島町から提供してもらった資料を見て、ガラポンでグッズをあててもらおうというシンプルな紹介形式だったが、「全国各地にクジラの町があると初めて知った」「日本の沿岸でクジラをとっている、昔からとってきたことは興味深い」「くじらの食文化が多様だということがよくわかった」などの感想が寄せられた。

以上から、「クジラや捕鯨についての情報」は従来と同じであっても、繰り返し、場所を変えながら情報発信、文化発信に努める大切であることが実感された。またコロナ禍の間は、毎回工夫した「巣鴨くじら祭り」を開催してきたが、どうしても対話は不足しがちであった。今回、3年ぶりに相互に対話ができるリアルな「巣鴨くじら祭り」を開催することができ、やはり手ごたえが大きいことが実感された。

6.「われは海の子2022」

こどもたちへの海洋教育活動は、当会の基幹活動と考えている。当会が発足以来、発信してきた「日本は世界で6番目に広い海を持つ」ことを学ぶ機会として2022年度も「われは海の子～離島を学ぼう」プロジェクトが実施できるタイミングをはかってきた。

そして12月、東京都豊島区の2校、離島側として静岡県熱海市初島、豊洲市場と開催に向けての準備を開始し、具体的な予定を立て始めた。その途中で、初島側が非常に繁忙期であること、取材受け入れが難しいタイミングであることがわかったことから、取材先を「三浦市城ヶ島」に変更して準備をつづけた。

具体的なスタートは1月末。コロナ前同様に、2つの小学校で地理学の授業、離島（城ヶ島）の授業をそれぞれ開催した。そして授業を受けたこどもたち全員に作文を書いてもらい、こども記者を選抜した。選ばれたこども記者たちは「こども記者会議」に参加して記者としての自覚を持ち、大学生リーダーとともに城ヶ島、豊洲市場へ取材に出かけた。そして、現場においてチームの全員で考えたこと、自ら考えたことを、「われは海の子フォーラム」で発表し、大勢のこどもたちや保護者、関係者に海を守る大切さを立派に伝えてくれた。

そして、これら一連の活動が、当会発足当初から予定している「絵本シリーズ」の足がかりとなるよう資料を積み重ねている。

7.「インターネット通販『浜チヨク』をとおして水産物の販売促進」

2020年度に「令和2年度水産物販売促進緊急対策事業」として開設したインターネット通販サイ

ト『浜チョコ』を継続運営することとし、複数の事業者と交渉の末、DOUMA社との提携が決まり、実質的な運営はDOUMA社に担ってもらうこととした。2022年度は、当会が親しくしている漁村や漁協、加工メーカーをDOUMA社に紹介し、協力関係を維持しつつ運営をつづけている。

8. そのほかの事業について

- ・ウーマンズフォーラム魚と協力して実施している「浜のかあさんと語ろう会」は、新型コロナの感染者が減ってきたタイミングで6月に開催した。茨城県那珂湊から招いて実施した。
- ・水産エコラベルの普及活動は実施しなかった。[REDACTED]がMELジャパンのアドバイザーボードメンバーとしてMELに広報その他、アドバイスした。

一連の活動は、ホームページを通じて広く発信することにも努めるものとする。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【19,202】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
漁村の活性化に関する事業	すり身ワークショップ 西アフリカ・コートジボワールの女性漁業者支援活動 すり身加工技術をとおして漁村女性の自立支援活動を実施	4月～2023年3月	アビジャン(コートジボワール)	日本10名、アビジャン15名	アビジャンの漁村女性	アビジャンの消費者含め1000万人	3000
海洋事業並びに水産業の発展に寄与する事業 魚食を中心とした食育普及推進事業	「水産資源の持続的利用の広報活動」 アフリカで漁業関係者とともにサステイナブル・ユースについて考	8月～9月	アビジャン(コートジボワール)	日本3名、アビジャン15名	アビジャンの水産関係者	アビジャンの消費者含め1000万人	503

	えるワークショップを開催						
海洋事業並びに水産業の発展に寄与する事業 魚食を中心とした食育普及推進事業	「コートジボワール水産物輸出入調査」 コートジボワールと日本の水産物交流の可能性を調査した。	8月～2023年2月	アビジャン（コートジボワール）、東京（日本）	日本5名、アビジャン15名	アビジャンの水産関係者	アビジャンの水産関係者、消費者含め1000万人	8000
海洋事業並びに水産業の発展に寄与する事業 魚食を中心とした食育普及推進事業	クジラ食文化啓蒙普及 1)「巣鴨くじら祭り2022」を開催。くじら川柳やくじら料理、クジラ・ワークショップ等を行った。 2)「クジラの授業」をと おして、次世代を担う子どもたちや栄養士の学生、栄養士等を対象に日本には鯨食の伝統があることを伝えるとともに、クジラを学校給食メニューに採用してもらおうようクジラの栄養価についても広く伝えた。	1)「巣鴨くじら祭り2022」 10月～2023年2月 2)「クジラの授業」10月～2023年3月	1) 東京 2) 東京	1) 25人 2) 15人	1) 巣鴨エリアを中心に東京の生活者 2) 東京の子どもたちと教員、保護者、栄養士、調理師学校生	1) 350人 2) 6000人	7700

<p>こどもたちへの海洋教育並びに水産業に対する啓蒙普及事業</p>	<p>われは海の子 2022 島国・日本の 国境はすべて 海上にある。 東西南北の国 境を学ぶこと で、海とつな がり深い日 本について考 え発表する機 会を創出する</p>	<p>12月～2023 年3月</p>	<p>東京都豊 島区エリ ア、三浦 市城ヶ 島、豊洲 市場</p>	<p>40人</p>	<p>都内の小学 生、 水産関係者</p>	<p>都内の小 学生 1000万 人、水産 関係者 300人</p>	<p>1050</p>
<p>こどもたちへの海洋教育並びに水産業に対する啓蒙普及事業</p>	<p>「海と魚を理 解する絵本づ くりプロジェ クト」 日本全国の漁 業、漁村、魚 食文化等につ いて網羅した 絵本シリーズ を制作し、全 国2万3000 校の小学校図 書館に配布す る事業。</p>	<p>実施調査・ 研究まで</p>					<p>0</p>
<p>水産物の流通及び消費に関する事業</p>	<p>インターネット 通販「浜チ ョク」をと おして水産物 の 販売促進 2020年度に開 設した「浜チ ョク」を関係 者とともに継 続運営する</p>	<p>2022年4月 ～2023年3 月</p>	<p>インター ネット上</p>	<p>3人</p>	<p>一般消費者</p>	<p>10,000 人</p>	<p>0</p>
<p>都市と漁村地域との間の交流の促進に関する事業</p>	<p>「浜のかあさ んと語ろう 会」 漁村地域の女 性漁業者を東 京に招く事業 を通して漁業</p>	<p>2022年6月</p>	<p>ウーマン ズフォー ラム魚に 協力して 実施</p>	<p>3人</p>	<p>一般消費者</p>	<p>10,000</p>	<p>0</p>

	者と消費者との情報交換、理解増進を図る事業						
水産物の流通及び消費に関する事業	「海と魚を理解する絵本づくりプロジェクト」 日本全国の漁業、漁村、魚食文化等について網羅した絵本シリーズを制作し、全国2万3000校の小学校図書館に配布する事業。	実施せず					0

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 0】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)

令和4年度 活動計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

特定非営利活動法人 海のくに・日本
(単位：円)

科目	金額		
I. 経常収益			
1.会費収入			
会費収入	239,386		
われは海の子賛助会費	1,100,000		
協賛金収入	0	1,339,386	
2.事業収入			
日本鯨類研究所 業務委託	7,700,000		
大日本水産会	502,860		
鯛ロビン 業務委託	11,000,000	19,202,860	
3.その他収益			
為替差益 (IFPRI)	1,639,991		
受取利息	240	1,640,231	
経常収益計			22,182,477
II. 経常費用			
1.事業費			
(1)人件費			
人件費	4,243,589		
人件費計	4,243,589		
(2)その他経費			
会場費	222,470		
旅費交通費	1,976,352		
委員旅費	75,266		
印刷製本費	1,270,159		
消耗品費	2,578,515		
謝金	1,018,300		
通信費	216,042		
調査分析協賛費	1,044,882		
送料・運搬費	104,472		
資料購入費	132,996		
賃借料	3,845,129		
設営費	1,361,205		
保険料	40,000		
進行管理費	700,000		
撮影費	20,000		
その他経費計	14,605,788		
事業費計		18,849,377	
2.管理費			
(1)人件費			
給与手当	1,133,780		
人件費計	1,133,780		
(2)その他経費			
消耗品費	466,788		
通信費	58,902		
水道光熱費	222,061		
雑費	23,006		
その他経費計	770,757		
管理費計		1,904,537	
経常費用計			20,753,914
当期経常増減額			1,428,563
III. 経常外収益			
経常外収益計			0
IV. 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			1,428,563
法人税、住民税及び事業税			0
当期正味財産増減額			1,428,563
前期繰越正味財産額			▲ 1,499,366
次期繰越正味財産額			▲ 70,803

令和4年度 活動計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

特定非営利活動法人 海のくに・日本
(単位：円)

科目	金額		
V. その他の事業			
1.収入			0
2.支出			0
			0

令和4年度 貸借対照表

令和5年3月31日現在

特定非営利活動法人 海のくに・日本
(単位：円)

科目・摘要	金額		
I. 資産の部			
1.流動資産			
現金預金	51,774,057		
未収入金	3,887,374		
流動資産合計		55,661,431	
2.固定資産			
(1)有形固定資産	0		
(2)無形固定資産	0		
(3)投資その他の資産	0		
固定資産合計		0	
資産合計			55,661,431
II. 負債の部			
1.流動負債			
短期借入金	4,005,560		
前受金	51,726,674		
流動負債合計		55,732,234	
2.固定負債	0		
固定負債合計		0	
負債合計			55,732,234
III. 正味財産の部			
前期繰越正味財産		▲ 1,499,366	
当期正味財産増減額		1,428,563	
正味財産合計			▲ 70,803
負債及び正味財産合計			55,661,431

令和4年度 財産目録

令和5年3月31日現在

特定非営利活動法人 海のくに・日本

(単位：円)

科目・摘要	金額		
I. 資産の部			
1.流動資産			
現金預金			
東京三菱UFJ銀行普通預金	47,383		
東京三菱UFJ銀行普通預金	0		
東京三菱UFJ銀行外貨預金	51,726,674		
未収入金			
大日本水産会	10,000		
財団 日本鯨類研究所	3,850,000		
年会費	27,374		
流動資産合計		55,661,431	
2.固定資産			
(1)有形固定資産	0		
(2)無形固定資産	0		
(3)投資その他の資産	0		
固定資産合計		0	
資産合計			55,661,431
II. 負債の部			
1.流動負債			
短期借入金			
WFF	4,005,560		
前受金			
外務省	51,726,674		
流動負債合計		55,732,234	
2.固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			55,732,234
正味財産			▲ 70,803

令和4年度 年間役員名簿

令和4年 4月 1日から 令和5年 3月31日まで

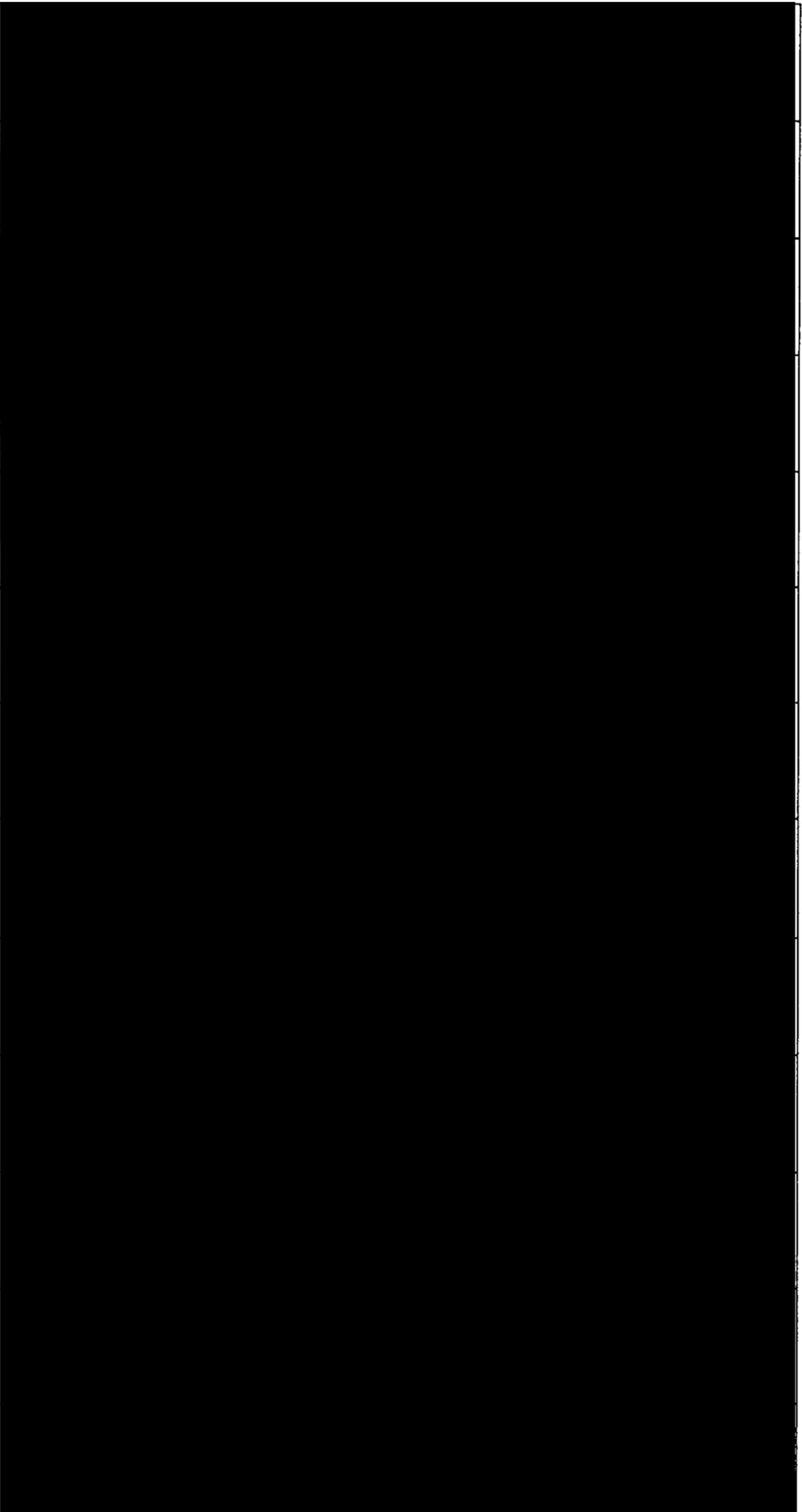
特定非営利活動法人 海のくに・日本

役名	氏名	就任期間	報酬を受けた期間
理事長	しらいしゆりこ 白石ユリ子	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	報酬なし
副理事長	さとうあきこ 佐藤安紀子	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	報酬なし
理事	ひぐち えいじ 樋口 栄治	令和4年4月1日 ～令和4年3月31日	報酬なし
理事	たかぎ よしひろ 高木 義弘	令和2年4月1日 ～令和6年3月31日	報酬なし
理事	たにかわ なおや 谷川 尚哉	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	報酬なし
理事	やまもと とおる 山本 徹	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	報酬なし
理事	きたかわ こ 北川みわ子	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	報酬なし
理事	まかべ はつこ 眞壁 初子	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	報酬なし
理事兼 事務局長	おおのき とくじ 大軒 得志	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	報酬なし
理事	さえき りか 佐伯 理華	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	報酬なし
監事	おだ やすお 小田 康夫	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	報酬なし
監事	なかす いさお 中須 勇雄	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	報酬なし

社員のうち10人以上の者の名簿

令和5年 3月 31日現在

特定非営利活動法人 海のくに・日本

	氏 名	
1	白石ユリ子	
2	佐藤安紀子	
3	樋口 栄治	
4	高木 義弘	
5	谷川 尚哉	
6	山本 徹	
7	北川みわ子	
8	眞壁 初子	
9	大軒 得志	
10	佐伯 理華	
11	小田 康夫	
12	中須 勇雄	